

今、振り返る教師としての原点

私を育てた  
あの時代、あの出会い

# 何事も生徒を第一に考える 教師としての姿勢を学んだ

三重県立津高校 上村和弘

学校は生徒の学びの場である。しかし、時に教師が自分の指導観や満足感を優先させ、生徒の成長を顧みずに進んでしまうことがある。どんな時でも生徒が中心であるという、教師のあるべき姿勢を見せてくれた指導教員との日々を振り返る。

## 指導の全てを見せてくれた



商社に3年間勤務後、25歳で教師となりました。新卒時には

教員採用試験に合格できず、再挑戦で夢がかないませんでしたが、同年代から遅れてのスタートに、私は不安でいっぱいでした。そんな私に、目指すべき教師像を見せてくれたのが川合康之先生です。同じ英語科で5歳年上、初任の石薬師高校での私の指導教員でした。

川合先生は週1回、2人の共通の空き時間に勉強会を開き、教科指導や学級運営の方法を教えてくださいました。授業では、毎回、教科書の英文を写して指導

したいことを書き込んだノートを作って臨み、生徒の理解度合いに応じて内容を足したり引いたりしていること、文化祭や体育祭で生徒が主体的に活動するように導くために、学級通信で伝えていくことなどを教えてくれました。4、5月には土日も使い、学級全員の家庭訪問をされていきました。当時の同校は生徒指導にも力を入れている状況で、「7月の保護者会まで待つてはられない。少しでも早く生徒の家庭環境を知り、保護者との信頼関係を築いておきたい」というお考えでした。

まれる状況を間近で見ました。先生の学級は、英語の平均点が高く、球技大会では上位に入賞していました。文化祭では学級全員で巨大な怪獣の模型を制作。撤去時には生徒と先生が一緒に号泣していました。1年生の副担任だった私は、担任になつたらこんな学級を作りたい、それにはどうすればよいのかを考えるようになりました。だからこそ、翌年に2年生の担任となった時は不安よりも期待でいっぱい、温めていた指導を思い切り実践できたのです。

がゆさを感じたこともありません。そんな時は「生徒を第一に考える」という川合先生の言葉を思い出し、自分はそうした姿勢で指導していたのかを振り返るようにしました。学校は生徒が主役で、生徒が成長する場であり、指導が教師の自己満足であってはならない。結果が思った通りにならなくても、それを受け止めて次の指導に生かすしかない。川合先生の指導を本とすることで、私にもそうした姿勢が身に付いていったのだと思います。

## 主任としてのあり方を学んだ

その後、互いに異動し、川合先生と2度目に出会ったのは、赴任3校目の津高校でした。異

## 先輩教師の言葉

立場が変わっても  
生徒第一は  
変わらない

三重県教育委員会事務局研修分野研修指導室  
川合康之



当時の石薬師高校は、創立時からいらした先生方が

異動し、上村先生のような若手が多く赴任してきた時期でした。上村先生には、私がどんな考えでどう指導をしているのか、自分の持てるもの全てを伝えようと思いました。若手と共に私たちが新しく学校を作っていくという気概があったからだと思います。

左 うえむら・かずひろ 英語科。石薬師高校、松阪高校に勤務後、母校の津高校に赴任して7年目。2011年度に進路指導部主任となる。

撮影◎津高校にて

右 かわい・やすゆき 英語科。亀山高校、石薬師高校、津高校などを経て、2006年度、三重県教育委員会事務局研修分野研修指導室に着任。12年4月から三重県立神戸高校全日制教頭。



動1年目に3年生担任となり、その学年主任が川合先生だったのです。そこで、主任としてのあるべき姿勢を学びました。

川合先生は、担任の先生方主導で学年運営を進めつつ、学年団を1つのチームにまとめ上げていると感じました。学年内での意見が合わなかった時、まずそれぞれ的主張に耳を傾け、良い点を認めた上で、主任としては

何をどうしたいのか、自分の考えを伝えられていたのです。担任個々の思いを尊重するのと同じ時に、学年として進むべき方向を示し、担任が力を発揮しやすいようにされていました。ぐいぐい引っ張っていくわけでもなく、任せきりでもなく、私たちがよく見てくれていて、困った時にはすっと支えてくれる、そんな学年主任だったのです。

私は、本校に赴任7年目で進路指導部主任となりました。課題は、学年ごとに進めていた進路指導を学校として一本化することです。学校全体で取り組めばアイデアも多様に出てきますし、改善も効き、新しいことにも挑戦しやすくなります。生徒がもっと充実した3年間を送れるようになると考えました。

現在は進路指導部が中心となり、分掌や学年、教科をつないでノウハウを集約しようとしています。私は人を引っ張る立場となるのは初めてであり、組織をどう動かしていけばよいか悩むことは多々あります。でも、3学年主任だった川合先生をずっと見てきました。その技を手本としつつ、生徒のために学力を上げられるよう、力を尽くしていきたいと思っています。

津高校に赴任したばかりの上村先生に担任をお願いしたのは、石薬師高校で常に前向きで熱意のある指導を見ていて、3学年団にそのパワーが必要と考えたからです。上村先生は私が担任個々を尊重していたと言われましたが、生徒を第一に考えた結果、そうなっていたのだと思います。生徒と直接かわる担任が力を発揮して学級運営に当たれるよう、分掌や教科と連携し、環境を整えるのが学年主任の役目だと考えていました。

\*取材内容、およびプロフィールは2012年3月時点のものです